



REINANZAKA SCOUT CLUB



2023年
5月1日号

発行：霊南坂スカウトクラブ／日本基督教団霊南坂教会内
〒107-0052 東京都港区赤坂1-14-3
<http://reinzaka-sc.o.oo7.jp/>

No. 59

「子どもを招いて」

霊南坂教会 伝道師 菅根謙治

スカウト活動の創始者である
ベーデンパウエルは、最後
のメッセージでこのように語
ります。

「神は、私たちを、幸福に暮
らし楽しむようにと、このすば
らしい世界に送って下さった
と私は信じている。(中略)

自然研究をすると、神が君
たちのために、この世界を、
美しいものやすばらしいものに満ちた楽しいところにお
造りになったことがよくわかる。現在与えられているもの
に満足し、それをできるだけ生かしたまえ。ものごとを悲
観的に見ないで、なにごとにも希望を持って当たりたま
え。」

この言葉の通りに、霊南坂教会のスカウト活動に参加
する子どもたちを見ていると、キャンプを通して、自然の
中でいきいきと過ごし、笑顔で元気に過ごしているように
見受けられます。神様が造られた世界を楽しんでいるよう
に思います。スカウトに参加する子どもに「スカウトは楽
しい？」と聞くと、「とても楽しい！」と目を輝かせながら元
気に答えてくれます。子どもたちにとってスカウト活動が
自分を表現できる居場所になっているのだと感じます。

スカウト活動に参加する子どもたちをみていると、人生
が楽しそうに見えてとても良いなと感じるのですが、社会
に目を向けると、非常に生きづらさを抱えている子どもが
多くなっている現実もあります。それは、不登校件数や
児童虐待件数、また子どもの自死率が年々過去最多を
更新し続けていることからわかります。私は学生時代
に不登校の子どもへの支援を行い、物事を悲観的に捉
え、希望を抱くことができない子どもたちに出会ってきま
した。支援の中で感じたことは、子どもたちにとって、家
庭の他に、個性を大切に、受け入れていく居場所が
必要であるということです。子どもたちにとって、思いっき
り、自分を表現できる場所が必要です。スカウト活動は、
その役割を果たすことができると感じています。
このような時代だからこそ、子どもたちを招くスカウ
トの活動を大切にしてほしいと思うのです。イエスキ
リストが、子ども一人ひとりを受け入れて祝福をされ
ていったように、多くの子どもたちを招いて、



生きづらさを抱える子どもたちが元気になるような活動
をしていってほしいと思います。

神から愛されていることを実感し、希望を持って歩ん
でいく子どもが多く誕生していきますように、またこれか
らのスカウト活動が神からの祝福で満たされますよう
に、お祈りしています。

これからもスカウト活動をお支えいただきますように
お願いいたします。

Living out in God's open air, among the hill
and the trees, and the birds and the beasts,
and the sea and the rivers — that is, living
with nature, having your own little canvas
home, doing your own cooking and
exploration — all this brings health and
happiness such as you can never get among
the bricks and smoke of the town.



ベーデン-パウエル卿の言葉

神の造られた大自然の中で、丘や木や鳥や
動物、また、海や川に囲まれて生活するこ
と—つまり、自分の小さなキャンパス
の家を立てて、自分で炊事したり探検し
たりして自然とともに生活すること—それは
町のレンガと煙の中では決して得られない
健康と幸福をもたらしてくれる。



ボーイスカウト・ガールスカウトの活動

霊南坂教会幼稚園からスカウト活動に入り、全過程を終え、富士スカウト章、キリスト教章を獲得したスカウトです。取得した感想を書いてもらいました。 団委員長 内藤正樹

<<富士スカウト章を取得して>>

BS 港第1団ローバー隊

好きこそものの上手なれという諺が日本にはあります。これはあることを熟練するには、それを楽しめるようになることが肝要であるという意味の言葉です。私はこの言葉は全てのものに共通する真理だからこそ、500年弱という長い間を経ても使われていると考えています。楽しくなければ当然努力は辛いものになります。しかし、反転させてみれば楽しささえ見出すことができればどこまでも時間が許す限り突き進むことができるのです。



このことは、ボーイスカウト活動にも当てはまります。年を追うごとに忙しくなり、ボーイスカウト活動から離れやすい環境になって行きます。しかし、そんな中でも私を繋ぎ止めてくれたのは同期の存在でした。どんな活動でもこの人たちとなら楽しむことができる。そういった仲間を見つけることが、そのまま富士取得への道につながっています。実際私は、仲間たちと共に楽しいことを続けていた結果、富士取得に至りました。ボーイスカウトの理念に感銘を受けたとかそんな高尚なものはありません。ただ、楽しんでいただけなのです。

部活動などと並立して活動を行うことが難しい場合もあるでしょう。そういった場合は、自分のやりたいことに優先順位をつけるといいでしょう。その順位を元に、できる範囲でできることをすればいいです。欲張って、全てを完璧に行おうとしても、結局質の悪いことしかできなくなってしまいますから。

他の人と接していれば当然辛いこともあるでしょう。スカウト活動は私もボーイ隊で班長だった時には班員が全くいうことを聞いてくれず、一年ほど活動を全くしなかったことがあります。しかし、仲間、そして当時のリーダーのお陰でまた活動を再開するに至りました。一度離れてみると意識が変わることもあります。たとえ変わらず活動が辛いのであれば、自分にはあっていなかったのだとわかっただけですから、やめてしまえばいいのです。

要は気楽にいくことです。自分がやりたいことを、楽しめることを全力で頑張る。それができれば、自然と結果は後からついてきます。私の場合はそれが富士章だったというだけです。

今回、紹介したのはローバースカウトの矢野宏和君です。彼は現在、米国に留学中です。富士スカウト章を取得するため、日本に一時帰国したときはキャンプなど技術面を磨き、レポート提出・打ち合わせ・連盟の面接などは米国とのオンライン会議で行いました。通信機器の発達は素晴らしいものです。遠方においても実行できることを証明してくれました。富士スカウト章を取得はどんなことなのか意見を聞きました。

団委員長 内藤正樹

<<富士スカウト章を取得して>>

BS 港第1団ローバー隊

富士章は日本のボーイスカウトの中で最高位の章で、この賞を取得するには多くの壁を乗り越えなければなりません。富士章取得にはただ技能を高め社会貢献をするだけでなく、自身で考え行動し、様々な人と関わりリーダーシップを発揮して活動していくことが大切になってきます。



私は小学校一年生のころにビーバースカウトに入りました。そこからカブ、ボーイ、ベンチャーと13年間ボーイスカウトに関わってきました。その中では学校生活やコロナウイルスの影響でボーイスカウト活動が思うようにできない期間が多くありました。

学校生活では部活動が忙しく普段の活動は部活動が終わってからすぐに着替えて向かっていました。日本ジャンボリーでは部活動と合宿がかぶっており、合宿が終わってから途中参加をしました。ここまで私がスカウト活動をできたのは親の支えがあってこそだと思っています。合宿先である長野県からジャンボリー会場である石川まで360kmの道のりを車で送ってくれました。母がいなければ日本ジャンボリーの参加はかなわなかったと思います。

また普段の活動で部活やテストで遅れて参加しなければならないときは時間を変更していただき隊長には柔軟に対応していただきました。

コロナウイルスの感染が流行していた時期はZOOMなどを駆使して行うとともに、隼プロジェクトと絡めボーイ隊の活動の手伝いをしました。

ボーイ隊は最も長く活動する部門ということもあり多くの苦難を経験しました。

こんなこと自分にはできないと思うこと、時にはボーイスカウトをやめたいと思うこともありました。そんな苦難を乗り越えられたのは隣にいた親友のおかげだと思っています。ある時は仲間として助言をしてくれて、ある時はライバルとしてともに戦っていました。ボーイスカウトは他の団とともに活動することがよくあり、そこでは多くの友達ができます。他団のスカウトは今までの活動で得ることのなかった知識や楽しみを経験しています。友達や他団のスカウトとその経験を共有することは自身のスキルアップやモチベーションにつながり、今後のスカウト活動で大きな力になると思います。

私は富士スカウトを目指しているとき、富士章取得はボーイスカウトのゴールであると考えていました。しかし富士章を取得した今、富士章は通過点でありボーイスカウトである私たちの一つの目標点でしかないことに気が付きました。評価されるのは富士章ではなく、富士章を取得したスカウトの努力です。努力を惜しまず日々精進したスカウトには必ず良い結果がついてきます。その中の一つとして富士章取得を目標に、一人でも多くの富士章取得者が出ることを願っています。

<<半年を振り返って>>

テンダーフット、ブラウニー部門リーダー

■■■■ ■■■■

みなさん初めまして、愛知県第25団所属の菊川愛梨沙です。自分の団が好きで今も愛知県所属ですが、上京したのを機に自然と自分の団での活動から遠ざかり、日本連盟の方で活動していました。そんな時に4団に手伝いに来てくれないかと声をかけていただきました。スカウトを卒業してからリーダーとしての活動が無かった為、様々な不安がありましたが少しでもガールスカウト活動をしたいという思いで引き受けさせていただきました。

テンダーフット部門・ブラウニー部門はとても元気が良く、集会に参加するたびに元気をもらいます。最初の練習から見てきたページェントでは、スカウト達の成長がとても感じられた瞬間でした。そして去年は75周年という節目の年であり、私も一緒にお祝いできて嬉しかったです。リーダー経験もなく、愛知県連盟所属の私でも受け入れてくれるみなさんにとっても感謝をしています。いつか私の団にも遊びに来てください。

<<遊んで、学んで、楽しんで>>

ジュニア部門正リーダー

■■■■ ■■■■

今年のテーマは「はじめの一步」です。まずはスカウトが様々なことを企画してみる、実行してみることを大切にしました。浅草散策、〇〇図鑑作り、ドーナツ集会、初代ブラウニー（木村恵子さん）に話を聞く、メスティンでグラタン作り、防災館ハイキング、6年生を送る会（4、5年生企画）、春キャンプでのジュニアナイト（6年生企画）、工房でガラスや土、木での作品づくりなどなど。「どれも難しいけど面白いから、興味があるから、みんなと一緒にだと楽しいから」と色んな思いも混ざり、自分に向き合い、仲間のためにと互いに努力してきました。だからこそ「この学年が一番いい。大好き！」と言える仲間になりました。



<<22年度後半を振り返って>>

レンジャー部門 正リーダー

■■■■ ■■■■

シニア・レンジャーの年度後半は、計画立案と実行を主な課題として取り組みました。例えばシニアは、日帰りで11月にチームラボプラネッツ豊洲及びららぽーと豊洲散策を計画し、お天気に恵まれた事から大きな問題なく達成することが出来ました。一方でレンジャーは一泊二日の計画を立てました。いくつかの候補地から最終的に熱海を選び、決められた予算内で宿泊地とアクティビティを選定し実行に至りました。実施後は、準備・調査不足などの反省も出ましたが、やはり楽しかった、やりがいがあった、次に繋げたいなどの声が上がりました。

その為、年度最後にシニア・レンジャー総動員で二泊三日の春キャンプを目的地選定から行ってもらいました。準備期間短く、費用面や安全面の確保など近場の計画とは違う様々な課題にも直面しました。しかし成功も失敗も全てスカウトにとって良い経験になればと考えます。

2023年2月ワールドシンキングデー (全部門合同)



<<シニアレンジャーの春キャンプ>>

シニア部門 正リーダー

■■■■ ■■■■

シニア・レンジャー春キャンプは京都・大阪に行きました。事前準備で電車の時間やコインロッカーやお店の場所など調べてはいましたが、現実には予定通りにいかないことばかり。観光地は大勢の人でにぎわい、団体行動をするだけでも一苦勞で、大勢で動くにはどのような準備が必要なのかなど実体験を通して学ぶことができました。

また、8年前まで霊南坂教会の牧師でいらした吉岡先生の高槻日吉台教会に泊めて頂きました。先生にはアメリカ時代のことや現在お勤めの教会の様子など色々なお話を聞かせて頂き、USJの引率もしていただきました。コロナ禍でなかなか計画を実施できなかったスカウトたちにとっては、貴重な経験となりました。このような機会を頂き、ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

「思い出深いスカウト活動」 杉田憲彦



—スカウト歴—
昭和37年カブスカウト東京4団に入隊。BS、シニアでスカウト活動を経験し、大学の4年間は、カブスカウトのリーダーを経験。
このご縁で、霊南坂教会で結婚式をあげさせて頂きました。

私が初めてスカウト活動に参加したのは、今から60年ほど前、小学2年生の時です。すでにスカウト活動に参加していた叔父の勧めでカブスカウトに入団しました。当時小学生の間ではまだサッカーは広まっておらず、野球が主流で土曜日の午後は、近くの公園でいわゆる草野球をしていました。私も参加していましたが、ある日母に連れられて霊南坂教会にカブスカウトの集会を見学に行きました。野球をやりたかった私は、気乗りはしていなかったと思います。

たぶんカブスカウトの制服を見たのはそのときが初めてだったと思います。そしてその時見た、集会が始まる時のセレモニー(皆が広場に集まり、輪になってしゃがみ歌を歌い、その歌が終わると同時に皆が飛び上がって「こんにちは」と敬礼をしながら挨拶をする)の光景を今でも思い出します。入団してからは自分もやりましたが、初めて見たその光景は、強く印象に残ったのだと思います。集会の様子も見学して、結局入団。13年間に及んだスカウト生活の始まりです。

カブ、ボーイ、シニア、カブのリーダーとして様々な体験をさせてもらいました。「スカウト活動の思い出は？」と聞かれれば、なんととってもキャンプやハイキングなどの野外活動でしょう。

夏のキャンプ、カブの時はユースホテルでの宿泊。初めて親元を離れての集団生活でした。ボーイ以降は山や湖畔といった自然に恵まれたキャンプ場での生活。テントで寝て、まきで火を焚いて食事を作り、キャンプフォイヤーをやって、すべてが新鮮な体験でした。シニアの時には、真冬に雪中キャンプの経験もしました。夜中一晩中歩き続けるオーバーナイトハイキングの思い出もあります。

大きなイベントとしては、シニアの時に日本で世界ジャンボリーが開催されました。富士山麓で開催され、私は、ハワイから参加した隊の世話係と言うことで参加しました。その時、台風の直撃を受けて、ハワイの隊員と一緒に、一時会場外に避難するという忘れられない経験をしました。

また、同じくシニアの時に、アジア地区の「スカウト会議」が日本で開催され、そのスタッフとして従事させてもらったこともありました。

その他、奉仕活動の思い出もあります。福祉施設で夏に備えてプールの大掃除をしたり、バザーの手伝いをしたりしました。共同募金にも参加しました。カブのリーダーとしての経験は学生であった私が社会人となるためのまさに修行の場でありました。

今回、この文章を書くにあたっていろいろと思い出してみても、過ごしてきた人生のいろいろな場面で、スカウト活動で学んだり身に付けたりしたことが役に立ってきたなど改めて感謝の気持ちで一杯になりました。

さて、せっかく頂いた機会ですので、思い出話ばかりではなく、今私が携わっている仕事から一つ皆様にお話しをしようと思います。私は今、自動車教習所で仕事をしています。毎日のように、車社会に卒業生を送り出しています。その卒業式で、改めて卒業生に話をするの一つが「横断歩行者の安全の確保」です。横断歩道は安全に道路を横断できる場所であるはずですが、実際は横断中の事故があとを絶ちません。法律では、車が横断歩道を通しようとするとき、横断歩道を渡ろうとしている人がいたら、車は止まって歩行者を渡らせてあげなければいけません。横断歩行者が優先ということです。車を運転する時、皆さんはそのことを認識していますか。免許を取得するときに教わったはずですが、いつの間にかそれを忘れて車が優先だと思っはいませんか。横断歩道の安全は、ドライバーが確保してあげなければならないのです。

このドライバーの意識には地域差があって、東京では車が止まる確率は20%程度ですが、長野県では60%近い車が止まって歩行者を渡らせてあげているという統計があります。車や人の数が違う、横断歩道の数が違うとって済まされる話ではないと思います。犠牲になるのは、子供、お年寄りが主です。車を運転するとき、横断歩道があればまずはスピードを落とし、歩行者がいるかどうか十分に注意して欲しいと思います。

実は、歩行者にも問題がある場合があって、中には上記の法律を知っているか否かに関わりなく、そもそも車は歩行者を保護するものとして、車が近付いているのに、止まったことを確認せずに渡り始める人がいるのも事実です。必ず車が止まったのを確認してから横断をはじめてください。アイコンタクトが大切と言われています。ドライバーと歩行者がお互い目と目で合図して確認しあって下さい。

「笑顔で交わすアイコンタクト」皆さんぜひ実行してください。

スカウト活動の弥栄を願っております。

「揺るがない土台」 田中（旧姓安保）和子



—スカウト歴—
1955年 ガールスカウト東京第4団
入団
↓ リーダーは白井喜久子さん
志水久さん
その他 大勢の諸先輩
↓
1961年 ガールスカウト卒業

この頃、私は、霊南坂の坂を歩きながら、年月の経過を振り返らずにはいられません。東京に半世紀ぶりに戻り、再び霊南坂を上り下りする自分の来し方に思いを馳せると、ずいぶん多くの恵みを受けながら生きてきたものだとの底から感じます。

ライフコース理論を通して人生を見れば、いくつかの人生の節目や旅路が見えます。樹木は何年生きたかを、年輪で調べることができ、その年輪からは、その年の気温、気候やその環境なども読み取ることが出来るそうです。もし、私にも年輪があるならば、自分の来し方を検証できるかもしれません。

喜びに輝いていたころ、悲しみに打ちひしがれていたころ、・・・順風満帆とは言えない人生でしたが、どんな時も、諦めなかったと思います。それは、私の土台が支えてくれたからです。そのモットーは「一生懸命」でした。でも、私が立派だったとか、努力したなど、ということは微塵もありませんでした。その土台に支えられて、とにかく「一生懸命」生きてきました。もちろん、子どもの頃、大人になって出遭うかも知れない困難を予測することは誰にも不可能なことです。私も今、振り返ってみると、私には超えられそうもない高い壁に行く手を阻まれました。

次女が6歳の頃、幼稚園の先生から、診察を受けるように、と勧められたことが発端でした。何か所もの病院で、いろいろ検査を受けた結果、娘に知的障害の診断がおりました。障害とは言っても上を見ればきりもなく、下をみてもきりがなく、という比較級では語れないことですが、私は、どうしたらよいのか…頭の中が真っ白になり呆然とするばかりでした。娘の脳の発達予測、親としての育て方の心構えなどをドクターが話してくださいましたが、遊んでいる娘を見ながら、ただただ、流れる涙をとめることができませんでした。

そんな娘と共に何とか生きてきました。娘は今、40歳の後半になりましたが、私が両親を看取った後、主に視覚障害の方の伴走をするマラソンのグループに入れていただき、持てる恵み（健康）を活かしてマラソンを楽しんでおります。昨年はコロナで中止になった大会もありましたが、ハーフマラソンに3回エントリーして、回りの人たちから褒められ、次女もとても満足の様子でした。次女のことは、大小、数々の山を乗り越えて、やっとここまで辿り着いた、という気持ちですが、マラソンに出会って、「走るのが好き」と言い、いつも一生懸命走っています。

私は9歳で、三本松教会（千葉県市川市）から霊南坂

教会の近くに引っ越して来た時、霊南坂教会でも待っていてくださり、スムーズに教会学校に通い始め、そこでスカウトと出会いました。私には彼らの活動が新鮮で羨ましかったのを覚えています。中学生になって入団が許され、ネックチーフを首に巻き、スカウトのおきてと約束を唱えたとき、生涯で初めて緊張しました。それまでに「おきて」や「やくそく」などという自分を縛るものはありませんでした。それは心に沁みました。

その頃はまだ戦後の傷跡が身近に残っていました。渋谷に行くと、（中学が渋谷にありました）傷痍軍人と言われた方たちが寄付を募っていました。脚や腕を失って、寒風の中に立っていらした白衣姿は強烈な戦争の印象でした。また、上野動物園によく連れて行ってもらいましたが、西郷さんの銅像の下には、まだ物乞いをする子どもがいました。そのような子ども時代を、チャーチスカウトとして豊かな愛情と、様々な体験（普通の子どもより多く）を通して育てられたことは、自分の掛け替えのない財産だと、高齢者となった今、特に強く思います。例えば、「おきて」の中の、「神と国」も抽象的ではなく、子どもながらも、具体的に感じとっていました。

スカウトの使命や活動については、多くの先輩、後輩スカウトたちが語っていらっしゃいます。私も目を閉じるとユニフォーム姿の先輩方が生き生きとよみがえります。どなたも真剣に全力でスカウト活動をし、多くの後輩を育ててくださいました。今、是非お伝えしたいのは、スカウト活動を後ろから支えてくださった方々（先輩、保護者たち、教会の方たちなど）への感謝です。

これからの子どもたちが、神を愛し、平和を愛し。祖国を愛し、隣人を愛する人になって欲しいと願っています。私も、最後まで「一生懸命」生きていけるといいなあ」と思っています。

神からの豊かな祝福をお祈りします。



2019年9月YMCAチャリティーラン
伴走（右）

[追悼]

今は亡き青木義明さんを思い、悼む

渡邊 澄

故戸田 健次郎兄を偲んで

臼井 純一

私が霊南坂教会のボーイスカウト東京四隊に入ったのは、確か昭和25年か26年だっただろうか。父から親交のあった今井譲二さんがボーイスカウトを始めるらしい、と聞かされ、すでにスカウトの一員であった近所に住む坂本光一さん（後に東京都の助役を務めた）に連れて行ってもらったのがきっかけであった。



当時3つの班があり、私が入ったのはツバメ班で、その班長が青木義明さんだった。

麻布中に入って間もないころであったが、すっかりボーイスカウト活動にのめりこんだ私は、週末に限らず毎日のように霊南坂に通ったものだ。

青木さんは麻布中の先輩でもあり、山岳部に所属していた。当然山歩きが好きで誘われて相模湖界隈の山をあちこちと一緒に歩いたものだ。覚えてたのスカウトソングを次から次へと歌いながら山道を歩き、夕暮れに里に下りてくると柿の木に熊の爪痕がついていてぞっとしたこともあった。その時の山歩きは今も続けている高尾山のボランティア活動に大いに役だっている。

青木さんは四隊の機関紙「スマイル」の編集長でもあり、それを手伝っているうちに、後を引き継いで編集をやることになってしまった。記事を集め、ガリ版を切り、謄写版のローラーで刷る作業は霊南坂教会の塔の上の部屋で夢中でやったことを思いだす。不慣れた私の作る「スマイル」だったが青木さんから叱られたことは無い。

そんな私を見て家の近所の遊び仲間であった、後輩の高橋弘長君も四隊に入ってきた。

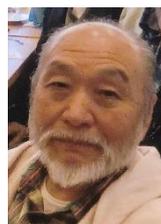
都連のハイキングで笹の切株に踏み抜き、怪我をして休んでいる私に青木さんと遠山さんが見舞いに来てブックスタンドをプレゼントしてくれた。そのブックスタンドは健在で、今もデスクの上にある。

青木さんの家は虎ノ門の町中にあり、御父上はシャツの仕立てをされていて、遊びに行っているうちに学生の身で不相応に思えるがワイシャツを仕立ててもらったこともあった。石田隆一さん、遠山さん、長沢さんなど西桜小学校のメンバーが近所に住んでおられた。

青木さんご夫婦は結婚を機に奥様の地元である小田急相模原に住まいを持たれ、確か二人の娘さんが出来たと記憶している。そしてご夫婦ともゴルフを楽しまれ、大厚木のゴルフ場で私と3人でゴルフをしたことも楽しい思い出として残っている。

晩年の青木さんは喉に支障があったのか声がよく出なくなり、一方私は耳が遠くなり、電話で話すことも難しくなって、お目にかかることも絶えていた。そのような時に亡くなられたことは人伝てに日にちを経てから知らされ、誠に残念な思いでただご冥福を祈るばかりである。

戸田君の訃報の知らせは突然でした。2022年6月1日未明 75歳で昇天されました。



ことの始まりは、2014年教会クリスマス礼拝時に階段ステップでつまずくのをこれも今は亡き倉持君がおかしいと気付いた事からでした。体の動きの僅かな異常から原因が判明し、BS仲間内で内科医の村田君にも相談し治療に励みながら家業のクリーニング店で顧客対応を続けていました。しかし70周年記念のスカウトクラブ主催パーティに途中から見当たらなくなってしまった。後で聞くと「突然意識が遠のき自宅で失神した」との事、「仕事中的車で頭が真っ白になる」など病状が進行する様子やクラブの月例集会後、西郷さんの車から降りた私と二人はスペイン坂の道端の石につまずき、重ね餅に倒れた彼の重い体を引き起こせず、通りがかった外人に助けってもらった。BS同年代のスカウト仲間でも頑強、偉丈夫な彼(体重90Kg?以上、スイーツ好きでメタボ)が自宅の中で度々転倒した。か細い奥様は一人でいかに大変だったことでしょうか。最後は自宅からケア・ホスピスに移り、コロナ禍の中でご家族やお孫さん達との面会もままならない状況での旅立ちでした。

BSの現役時代、彼はバスピク、64年オリパラ国旗掲揚奉仕、円卓会議、BS富士野営訓練等に積極的に参加し、デンチーフとしてカブスカウトのお世話をするなどスカウティングが楽しくて、楽しくてたまらないと教会にいつも通い、ゲームやソングの輪の中でスカウト活動を満喫していました。

しかしスカウト仲間同士の本当の繋がりとは、スカウトクラブ時代の社会人になってからでした。世話上手な故倉持君を中心に、横浜中華街の豪華な食事会、カト4の思い出の店を巡る鎌倉ツアー、小江戸川越巡り(白焼き含む鰻嫌いが判明し皆から冷やかされていた)、谷中下町巡り、澤田邸でのOB/OG等が参加したBBQ会や中国上海・本場の中華料理を楽しむ海外旅行等等楽しく旧交を暖め時などその活動には常に彼がいました。そしてスカウトクラブ役員として周年記念事業、那須で実施した福島復興支援の会場設営、教会バザー出店への協力など、自分が現役当時から楽しんだ思い出を皆に味わってほしいとの願いから頑張ってくれておりました。現役時代からいろいろな話題やエピソードを提供し、スカウト行事やBS仲間の集いに最後まで車椅子(狭い椅子に太った尻を入れると痛い!痛い!と言っていた)で参加し楽しむ姿が想い浮かびます。

今は、今田さん、飯田さんやカト4、オッパマさん、ボスらの先輩や親友だった倉持君達と営火の炎を囲み、楽しい語らいを楽しんでいることでしょう。

「戸田君、俺はそちらに行くのはもう少し遅れる、勘弁してくれよ。」心から生前のご厚誼を感謝致します。安らかにお休み下さい。 三指

「AJSEPについて」 RSC会長 西郷 崇子

過日アフガニスタン東部に於いては5.9の大規模地震に襲われ被災者支援の輪が世界に広がりました。

かつてRSCではボランティア支援でアフガニスタンでのスカウト運動活動復帰のサポートをする計画を立てスタートさせましたが、その後RSCから独立してAJSEP (Afghanistan Japan Scouts Exchange Project) として活動を続け日本で開催の世界ジャンボリー等にもスカウトたちを招聘しました。彼らがいよいよ活躍を続け今では大変立派に育ってアフガニスタンスカウト活動の中心になっています。



「私がし続けているボランティア活動の1つ マザーランドアカデミーへの協力」 塚田洋子

この会は1982年に子供のいじめに直面した5人のお母さんによってはじめられたものです。

趣旨を書くとき長くなりますので、HPをご覧ください。

(https://www.sansei-csr.jp/csr09/pdf/CSR09_03.pdf)

ボランティアの内容は色々ですが、私は必要としている物資にしています。

その年に一番貧しいと国連が定めた国へ送られます。

ここ十年はマリ共和国でしょう

か。物資は食品から衣類・文具・雑貨色々ですが、5か月をかけて船便で現地に届きます。荷造りも3辺を合わせて105cmの段ボールに指定されたようにいれます。20年ほど続けていますが、だんだん送りやすくなりました。経費は、内容物、国内の定められた場所への送料、日本国から現地までの船便代はすべてボランティアです。物資は半年～1年かけて用意しています。年に2～3箱にしています。ボランティアはグループでしたり、個人でしたりですが無理せず身の丈に合ったやり方がいいと思っています。

この他に市原ぞうの国、日本国際ボランティアセンター、公社)日本キリスト教海外医療協力会、地域のボランティア等です。

スカウト活動はボランティア活動ではないですが、ボランティアを学ぶには良いグループだと思います。また、私個人は家庭でも、学校でも、そしてスカウト精神でもボランティアに深く接していましたので生涯出来ることをしたいと思い、続けています。



マリ共和国
クリコロ地区
グリーン地帯植樹
ボランティア

「日本の少年団運動」増補改訂版の出版

BS OB : 五十野 和男

2018年の出版は、故内田二郎家の流出資料を古書店より入手した事がもとなり、関係者から頂いた情報・資料集でした。その後、皆様から「戦後のスカウト運動復活を纏めては」とのご示教をもに、今回ボーイスカウト日本連盟創立百周年記念出版となりました。

増補改訂版は、

- ① 創立から終戦までの新資料
- ② 戦後以降のスカウト活動復活
- ③ 米国極東連盟下の沖縄スカウト活動
- ④ スカウト関係の書籍類リスト

を追加掲載しております。

特に、我々ボーイ/ガールスカウト東京第四隊の指導者とスカウトは、戦後いち早く発団当初からその活動を通じてスカウト発展に寄与してきました。その様な写真や資料をBS名誉団委員長 杉原 正兄から提供して頂くとともにマーチン・ウィリアムズ氏の貢献に関する寄稿と監修をお願い致しました。

日本の少年団運動

資料に見る黎明期のスカウティング
増補改訂版



ボーイスカウト日本連盟 創立100周年記念出版

2022年100周年を迎える改訂増補版である。黎明期の少年団の活動に加え第二次世界大戦後いち早く再建された様子や、本土復帰50年を迎えた沖縄のスカウトが米軍統治下での活動など「目で見えるスカウト運動100年小史」だ。

本書籍購入既望の方は下記メールアドレス宛にご連絡下さい。

- ・ kazuoisono@yahoo.co.jp
- ・ 頒布価格 3,500円→3,000円
- ・ CD付頒布価格 4,000円→3,500円

弥栄

霊南坂スカウトクラブ 告知板

【バザー開催】

10月22日土曜日、三年ぶりにバザーが開催されました。スカウトクラブでは、例年ルバーブジャムを販売していますが、今年はコロナ渦でいつものように軽井沢ジャム工場



は休止せざるを得ませんでした。そんな中、西郷さんが一人で40弱のジャムを用意して下さり、販売することができました。根強いファンにより、ジャムはあっという間に完売しました。



久しぶりのバザー開催に、BS GSスカウトたちも楽しそうに参加していました。来年はジャム工場も再開し、大量のジャム販売を行う予定ですので、皆様のご来場を期待しております。

(檜垣君子 記)



【ScoutClub ホームページへの接続方法】



「スマホの場合」

- ・スマホのカメラまたはQRコードリーダーアプリから上のQRコードを撮影する。
- ・スマホ画面に表示されたURL文字をクリックする。

「パソコン等から見る場合」

- ・PC等のキーボードで下のWEB URLを入力します。

(検索アプリは Google Chrome または Microsoft Edge を推奨)

・WEB URL は、
<http://reinanzaka-sc.o.oo7.jp/>

・よくある入力ミスは、

◎ **-sc.o.oo7: 英文字”オー”**

× **-sc.0.007: 英数度”ゼロ”**

・杉原さんが日本ボーイスカウト東京連盟の連盟長に就任されました。

・ガールスカウト日本連盟 創立100周年を記念し、ガールスカウト日本連盟より霊南坂教会と霊南坂スカウトクラブとに感謝状が送られました。(22/1/23)

【召天者】

- ・青木 義明兄
 - ・戸田 健次郎兄
 - ・岡田 茂兄
 - ・石井 喜美江姉
 - ・石田 隆一兄
- ご冥福を祈りましょう。
訃報情報を得られた方はお知らせください。

【スカウト催事予定】

- ・GS 入団・巣立ち式：4/8
- ・イースター：4/9
- ・バザー：10/21 予定

会費の納入をお忘れではないですか？

スカウトクラブは現団への支援、会報印刷、通信費など、皆様の会費とバザーの収益金、賛助金で運営しています。毎年の納入をお願いいたします。

年会費 3000 円/年

家族会員 2000 円/年

入会金 1000 円/入会時のみ

振込先「ゆうちょ銀行」

00170-4-765234

他行からの振込みの場合は下記宛てにお願い致します。

銀行名 : ゆうちょ銀行

店名(店番): ゼロイチキュー(019)

預金種目 : 当座

口座番号 : 0765234

口座名称 : 霊南坂スカウトクラブ

【霊南坂スカウトクラブ役員】

会長	西郷崇子
副会長	田中新二
会計	白井純一
総務	高玉 大 五十野和男
書記	檜垣君子 杉田憲彦
通信	西谷芳美 小田島典子
広報・団 会報 H.P	矢澤宏子 渡辺 博 白井純一
教会・団	内藤正樹 ボーイスカウト団委員長 古谷久代 ガールスカウト団委員長
監査	日下部英一

【編集後記】

- ・パリの吉田さんから10/27便りがありました。詳細次回掲載予定です。お楽しみに。
- ・'23 1/21GSシニア10名とSDGs省エネの学習でTBSを見学しました。詳細はSC HP参照下さい